

令和2年度 所信表明

みらいを拓く 活力あるまちづくり



3月定例会で所信表明を行う西田町長

町政の基本方針と 施策の大綱

◆町制施行15周年

平成18年1月10日、(新)紀宝町が発足してから、来年1月10日で15周年を迎えることとなります。そのことを記念し、1月10日(日)、「町制施行15周年記念式典」を生涯学習センターまなびの郷において挙行させていただきます。多くの町民のみなさまがたと、ともに祝い、ともに未来に向けての、まちづくりを推進していく機運を高めてまいりたいと考えております。

◆地方創生

地方創生につきましては、少子高齢化や人口減少問題、東京圏への過度な人口集中に対応す

るため、平成27年度から令和元年度の5か年間で1期目として全国的に取り組みが進められました。本町におきましても、子育て、移住定住、商工観光などを中心に事業を展開し、1期目の集大成の一つとしては、飛雪の滝キャンプ場のリニューアルにより多くのお客様に訪れていただくことで、人と地域の交流・振興に新たな循環を創出することができました。

本地域の地方創生における新たな動きといたしましては、東紀州地域が一体となって観光振興を図るDMO組織の設立に向け、協議・調整を行ってまいりましたが、令和2年度に一般社団法人が設立されることとなり、その法人を中心に世界遺産「熊野古道」や豊富な地域資源を活かした活性化対策、インバウンドの強化などを図ることとされております。

本町といたしましても民間のみなさまとも手を携え、特色ある地域資源を活用し、都市部や諸外国からの人の還流を作っていくこととしております。

本年は、地方創生の取り組みが2期目を迎える年となり、国では、地方移住につながる「関係人口」の創出や、AIなど先

端技術を活用する「Society5.0」といった新たな視点を盛り込み、さらに深化を図ることとしております。

本町といたしましても、時代の流れに適応し、人口減少に歯止めをかける取り組みをさらに進めてまいります。

◆青森県藤崎町

また、青森県藤崎町のりんごと本町の柑橘類を中心とした特産品の連携につつましては、地域の垣根を越え地方と地方が直接つながり、お互いの特産品を両町の町祭などで販売することを通じ、現在では両町との道で相互に販売するまでに至っており、新たな商品開発などの相乗効果も生まれることとなりました。

今後、ローカル・トゥ・ローカル新連携プロジェクトの旗印のもと、さらに連携を深めてまいります。

◆第2次紀宝町総合計画

紀宝町のまちづくりを総合的



かつ計画的に進めていくため、平成29年3月に「第2次紀宝町総合計画」を策定し、住民一人ひとりが地域に誇りと愛着を持ちながら、みんなが主役のまちづくりを進めてまいりました。

本計画は、町の将来像である「海・山・川の恵みに抱かれ、ともに輝き創造するまち」を実現していくため、令和8年度を目標年度として策定しておりますが、社会・経済情勢の変化に的確かつ柔軟に対応できるように中間年で見直しを図ることから、令和4年度から令和8年度までを計画期間とする後期基本計画の策定に向け、令和2年度から2年間かけて作業を進めてまいります。

地区懇談会や住民アンケートを実施し、町民のみなさまのご意見を伺いながら、後期基本計画の原案の策定を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆IT自治体クラウド

IT自治体クラウドにつきましては、複数の自治体が安全な通信回線を介し、セキュリティ

レベルの高い外部のデータセンタールにあるサーバーを利用することにより、情報システムを共同で管理・運用することが可能となります。

既に三重県内では、3グループ、15の市町で導入しており、自治体クラウド化をすることにより、コストの削減や、災害時における業務継続性の向上が図られます。

本町におきましても、同様の総合住民情報システムを使用しております熊野市と連携し、導入を進め、住民記録や印鑑登録、各種税関係や国民年金等、電算システムにより運用しております業務を対象に整備を進めてまいります。

整備業務を実施するにあたり、令和3年度から令和8年度までに要する費用につつまして、債務負担行為として予算計上しておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

◆観光振興

観光の振興対策につつましては、昨年、



飛雪の滝キャンプ場

熊野古道が世界遺産登録15周年を迎え、県、市町、関係団体等が連携してシンポジウムの開催など様々な活動に取り組みしましたが、それを一時的なものにせず、20周年に向けて継続的に取り組みを進めていくなど、町の資源を最大限に生かして引き続き観光誘客に取り組んでまいります。

「飛雪の滝キャンプ場」と「道の駅・紀宝町ウミガメ公園」の本町の核になる両施設におきましては、自然や文化、食など町の魅力を積極的に発信し、観光誘客を図